

第1分科会

「地域社会のセーフティーネットワークづくり」

藤井 衛

((社福) ぐりーんろーど)

〔趣旨・目的〕

日本社会で培われてきた家族の「絆」や住民相互の「結」なども、経済優先社会の進行で崩れつつあり、自殺、孤独死、無差別殺傷、親や子への虐待、振込詐欺、老老介護…、「安心」「安全」「信頼」を喪失した社会ともいわれています。しかし、一方では、安心して生活ができる街づくりに住民自らが立ち上がり、社会の隙間を埋める様々な活動が実践されつつあり、また、これらの活動を組織化し、地域社会のセーフティーネットワークづくりに努力している人々もいます。その力がどこにあるのかを学び合ひましょう。

〔パネリスト〕

西山 真 (埼玉県志木市 ボランティアリーダー)

富永一夫 ((N) フュージョン長池理事長)

梅原健次郎 (神奈川県高齢者生活協同組合副理事長)



藤井コーディネーター：パネリストのご紹介は後程させていただきますが、報告書の作成にご尽力いただきます書記の橋本実さんを紹介させていただきます。埼玉県よしかわ市民講座実行委員会委員長をお勤めでございます。

それでは最初のパネリストをご紹介致します。同じく埼玉県にお住まいでいろいろなボラン

ティアリーダーとして活躍されています。発題を聞いて頂いて成る程、自分と共通するところがあると思って頂ければ良いかと思えます。西山真さんです。どうぞ宜しくお願い致します。

<各パネリストからの報告>

地域のボランティアリーダーとして関わって（西山 真氏）

こんにちは西山^{まこと}真でございます。少し私の経験とこれからの希望または夢をお話したいと思えます。埼玉県志木市に住んでおります。都心まで30分～40分の私鉄沿線に位置しており、面積は3km四方です。人口は7.1万人で人口密度は全国でも有数の高さです。駅前の商店街は賑わい、乗降客も11万人となっています。最近では都市化が進み、高層住宅も増加し、所謂「埼玉都民」が多いベッドタウン化しています。しかし、公園緑地が少なく、子供の遊び場も無く、治安も悪い、ひったくりや自転車泥棒等犯罪増加の傾向にあります。私はこの地に生まれ、育ち、10年前に大手金融機関を退職して、退職後に地域社会への参画の動機になったのが地域の治安状況の改善に取り組もうと決断したことにあります。この防犯パトロールは児童の登校下校時の安全を守る働きもしています。何より自分の住んでいる地域を安心・安全・信頼できる地域にしたかったのです。そんな訳で事務局長の役を仰せつかっています。

退職当初は自宅に居座り続けることもせず、色々な講演会、講座、セミナー等に参加したものです。地元では環境ボランティア養成講座を受講し、6か月後にそのまま解散してはもったいないということで30名の有志と共に「環境ボランティアグループ・エコ2000」を立ち上げ、グループ代表となり参加を呼びかけた私が代表を務めることになり、今日まで続けております。主に緑地帯の清掃活動（アダプトシステム＝高速道路の美化運動）を実施しております。アダプトシステムとは、ボランティアが里親になり樹木を育て、緑地帯の美化運動等を実施し、自治体が里親の活動を支援するシステムです。女性も参加しています。また、現役を退いて色々学んだことは、自分が住む身近な地域社会とどのように関わり、どうしたら安心して、安全に、信頼関係を築き過ごすことができるかということに尽きます。こうした社会参加の結果、結論は「地域はシニアの参加を待っている！」であります。

平成11年、県広報誌「彩の国だより」の掲載案内で「生きがい健康づくり活動普及指導員養成講座」を知り早速受講手続きをとりました。翌年（平成12年）に、講座修了者の有志で「生きがい講師団彩講会」を立ち上げ、副会長に就任する羽目になりました。養成講座は、当初、県生きがい振興財団（現、いきいき埼玉）の主催でありましたが、4年で県予算がカットされてしまい、5年目からは自力で講座（講師デビュー塾）を継続開催して新会員を増やして、現在会員数120名です。毎月例会に会員の研究発表を行い実力向上を図り、毎年1回3日間にわたり30名（1日10名ずつ）の会員が、県下各地公民館長等に会場聴講願い、講座や教室の講師として使って貰えるようプレゼンテーションを行います。近年、市も県も生涯学習の予算を大幅に削減する傾向にあります。ユニークな現役時代のキャリアを活かし、能力を発揮し、多少なりとも報酬を頂いております。町内から市レベルへ、そして県レベルへの活動の広がり、少子高齢化の時代の中にあって、元気な高齢者が身近な地域社会で活

躍し、何より生きがいを味わいつつ、色々な活動を続けなければ、どんな社会問題も解決しないのだと思っています。だから、120余名の講師集団が、文化教養、時事問題、健康福祉、企業NPOの立ち上げまで担うことがセーフティーネットワークであると申し上げたいのです。

藤井コーディネーター：引き続き、教育の現場にも立っておられ、自らも生活協同組合の経営に携わっておられる立場から発題をお願いします梅原健次郎さんです。

全国のセーフティーネットワーク構築の事例から学ぶ（梅原健次郎氏）

梅原でございます。神奈川県高齢者協同組合副理事長をしており、大学で高齢者福祉と労働福祉の講義を京都にある佛教大学、相模原にある北里大学で担当しております。私が担当する講義との関係で、時間が許す限り実地調査を兼ね現地を訪問するようにしております。また、学生にレポートを課す際にも参考資料を示して現地に足を運ぶように勧めています。第1分科会のテーマは、地域社会の中で見直されている大きなテーマです。その辺のお話をお手元の資料に基づいて発題を務めさせていただきます。昨年秋の『世界同時不況』という経済危機は、個人、国、世界にとって新しい価値観と行動様式を見つける機会でもありました。人間を第一義とする「共生社会」を目指すことが求められたのではないのでしょうか。科学技術の進展、政治、経済、社会文明の近代化、高度化はあらゆる事物の細分化、分断化とパラレルに進化しています。

評論家でもある内橋克人氏は「共生は連帯と参加と協同を原理として食糧、エネルギー、医療、介護など人間の基本的な生存権を大事にする、その価値観の下で新たな基幹産業を創出し持続可能な社会に変える」と力説しています。

アマーティア・セン（98年ノーベル経済学賞）は、「今重要なのは、国家や宗教を超えて人々を統合するグローバルなアイデンティティだ。…それにはまず、一人の人間がさまざまなアイデンティティを持っていることを認めなければならない。…争いごとは、さまざまなアイデンティティの一つだけを特別視し、他を無視するから起こる。…グローバルなアイデンティティは誰にもある。他者への基本的な同情心だ。道で転びそうになる人を見たら思わず支える。どこの国の人か、何宗教か、何語を話すか、助ける前に考えない。人間だからとしか言いようがない。この理解を深めなければ」と語っています。

次にリチャード・フオーティ（イギリスの生物学者）「協同と共存は、ごく初期の頃から生命の特性であった。出発点においては、生存は競争よりもむしろ、養分のやり取りという互恵的な関係に基づいていたと考える」と述べています。

ハイデッカー（ドイツの哲学者）は「個人主義化が進んだ社会で、分散しアトム化した個人を再び結びつける新たな社会原理として、ケアを位置づけ直す必要がある。ケアは人間存在の原点であり、他者と共にある（共生）のための条件である」と述べています。

最後に、内山節 [哲学者] は「昔から人間は、自然や地域と結び合い、その中で自分の役割をこなし充実感を抱いてきた。人々は、様々な結びつきを持っていた。困った時に助け合う力を持っていた。また、80年前の社会では様々な結びつきや助け合いの仕組みが社会の

中に埋め込まれていて、それが自主的なセーフティネットの役割を果たしていた。だから危機に立たされた場合でも、助けてくれる人たちの存在を信じる事ができた。今日ではそれら全てが脆弱なものになってしまった。私達はバラバラになった個人になってしまっている。自然が人間を包み、人間の営みが自然を包む関係が成立しているとき、自然も人間も無事でありえたように、人間同士もまた、お互いに包み合うように生きていくところに無事を感じさせる。そこで、人と人とが連帯し、持続する社会と暮らしの仕組みを作り直さなければならぬ時代を迎えている」と述べています。

最後に、新しい地域づくりから社会を変えていく**13事例**の紹介を行います。是非参考にしたいと希望される方は、詳しい資料も持参しているので休憩中に連絡先などをメモしてください。提言として、門を叩いて何か地域の為の展開をされたらよいでしょう。住民参加のまちづくりを学びながら展開していかれることを期待します。

藤井コーディネーター：これまでの発題で共通するのは、地域を見つめて「安心・安全で住みよいまち」がキーワードになっていると思います。お二方は現役を退職されてから地域活動に関わられました。退職前から地域社会の問題に関心を持ち、ご自分で色んな活動をされている方がいらっしゃいます。八王子市にある「NPO法人フュージョン長池」理事長の富永一夫さんです。

住みよいまちづくりを目指して、地域活動の継続の秘訣は事務局機能にある（富永一夫氏）

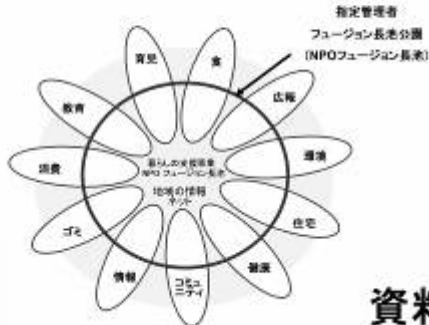
紹介に与りました富永でございます。『NPOフュージョン長池』を立ち上げて**10年**になります。何故NPOを立ち上げたのか、動機と体験を通してお話をさせていただきます。お手元に配布しております『ぼんぼこかわら版』をご覧ください。

まず、私の自己紹介をさせていただきます。私は広島で生まれ、大学を卒業して大手企業に就職し、**1994年**に現在のニュータウンに引っ越してきました。**110世帯**が住む分譲マンションに家族構成**5人**（母は**70歳**で亡くなりました）が入居しました。分譲マンションでは修理等を行う場合、人間関係で色々な問題がおこるものです。建物維持管理組合を立ち上げることとなり初代の理事に立候補しました。更に、管理組合の中に建物修繕委員会の専門部会を組織化し、一年交代で理事を持ち回りとなりました。住民がお互いに協力し合い、風通しの良いコミュニティを創ろうとコミュニティ委員会をつくり、住民の皆さんが自動的に加入してくださるような仕組みを考えたのです。しかし、自治集会を開こうとしても大人はなかなか参加してくれないので、**2年目（1995年）**の夏休みに子供を相手に『平成狸合戦』のアニメ映画の上映会を開催したのです。住民構成が複雑な町で田舎から来た人が殆どで、東京の大学に進学出来る位のレベルの人達の集まりで、東京で就職した人達ばかりで、親父はプライドが高く、集会には出てこないが子供対象にしたら親も同伴で喜んで参加し、楽しんでくれました。喜ばれる所で勝負するということで、私はポジティブに動くことが好きで、**2回目**のぼんぼこパート**2**を皆で仲良く催すことにしたのですが、あいにく阪神淡路大震災が起きました。手作りで始めたお祭りを毎年、長池公園で実施しています。当初の参加者**100人**から**200人**位が、今では**4千**から**5千**人位が集まるようになったのです。お祭りをやること

で何が起こるかわかってきました。それは、いろんな人、人材がいるということです。「良いことをやるのに何故こんなことをやるのか」という人が出てくる。大義名分と組織明確化がないと人が集まってこない。何をやるにしても挨拶のやりとりから始めることが重要です。仲良くなっていく、こういう自分達で自分達のマンション管理が出来ないか。自分達のマンションは自分達で守ることが重要と思うが上手くいかない、色々と理屈が多い「いいからやろう」とはいかない。しかし**1998年12月1日**に全国的に**NPO法人**施行のニュースがあった。私は包装機用会社に勤めており、土日は休みなので週**7日**のうち土、日、祭日と自治会活動をやってきました。**NPO法**が通過したことで私の人生は変りはしない。住んでいるニュータンの多摩の中に**23**の大学があり、地方から出てきた大学教授の先生方が住んでいらっしゃる。その先生方はちっとも実践しない人達で、能書がお得意（笑）。それはそれで世の中の役割分担で良いのだけれども、私は実践家ですから絵に描いた餅も美味しいかもしれないが食べられた方が良い。多摩ニュータンは『コミュニティ砂漠』といわれた町ですが潤いが必要と思い、周囲の人達から「富永さんは**NPO法人**の達人」とおだてられて、持ち上げられ、無謀とまでいわれたけれども、いざやると誰もついてこない（笑）。しかし今日、上手く機動するようになると、その人達は「僕はいつも切れ目無く応援してやってきた」と言って来ます（笑）。そこで旗を揚げないといけないといわれて旗を揚げたのが『暮らしの支援事業』なのです。何故ならば、厚生労働省は労働と福祉、国土交通省は国土の問題、住宅の問題、交通機関の問題等限られています。そして縦割の行政で皆バラバラ、これでは仕方がない為、一個の人間としてみたらそれが“暮らし”の総合的な支援として結びついてくるから、自分から豊かさを感じるわけだから、自分達でやることに思いを抱き、**NPO法人**を**1999年12月**に設立しました。法律施行から**1**年後、その時の年齢が**47**才で、私は会社に辞表をだして**NPO**の理事長になると理由を述べたら、「お前は馬鹿だ」といわれてそうかもしれんと思いましたが、でも自分の人生の中で、営利事業畑でお金儲けばかりやってきた得意技がありましたが、その得意技を非営利事業として人が幸せになる為に金儲けのその技術を用いてみたいと真剣に思ったものですから。ここでは一つ言っておきたいのですが、ビジネスとして経営の**4**資源とはなんですか。当たり前のように「人」・「物」・「金」・「情報」ですと言って頂けると思います。そのビジネスで用いてきた「人」・「物」・「金」・「情報」を地域活動できちんと惹きつけて、可能な地域活動からお金を稼げるような地域型のビジネスを融合させて見ようではないか、溶け合うように皆が仲良く、地域活動はボランティア活動ですから儲けに成るようなものではないが、地域である程度お金を動かすような仕事をやる為には、この地域活動であるボランティア活動に勝るセールスプローションは無いんですね。これを一生懸命やっていくこと、子供の面倒をみていると皆が納得して私の言うことを聞いてくれる、それをやって見ようじゃないかと思いました。そして協同と事務局というのがピラミッド型組織に於けるピラミッド型組織、これを地域に置き換えるとネットワーク型の左下（資料**1**参照）のところにある暮らしの“支援事業地域協同組織図”という事になりますが、この花びらの数程に色々と地域にネットワークの先を持っていると言う意味であります。協力すれば弱小の**NPO法人**も地域協力して働く人達のネットワーク型組織をもつ事が出来ると

NPOフュージョン長池 暮らしの支援事業地域協働組織図

(長池地域:顔の見える地域対象)



資料1

言うことであります。そうすれば様々なことを必要な時にプロジェクト型組織を目指して、組織は目標を達成したり、必要ないと言う段階になったら解散すれば固定費にならずに身軽に地域系列が出来るということが良く判って来ました。またその時の、地域活動の要は事務局にあるということも良く判って来ました。

上に君臨するのは社長ですが、上に君臨すると「お前は偉いのか」と言われて皆からふくろ叩きにあうのが地域にあり

ますので『逆文鎮型』と言われていますが、文鎮の頭一個は自分でありまして、人間サーバと言っていますが、全ての課題は私を目掛けて飛んできて踏んづけていきますが、でも一方で水族館の地下通路にはいって上を見上げると水族館の魚達が、上で動いているのを見るのも、とても面白いと思います。地べたの方から、地域活動を眺める姿も、また別な妙な喜びがあるもので、皆を煽ってあんたの得意技は何、あなたの得意技は何、と言うことを聞いて、その得意を見つけると得意技に向かって、あんたは構成表を作ろう、あんたは広報誌を作ろう、とか住まいのメンテナンスです、と言うように人を煽ってはやってきたわけで、それが多摩ニュートンに全体に広がっていくとこのひまわりのような、長池地域は人と名前が判る範囲、徒歩30分圏内位の所にこのひまわりのようなネットワーク型都市が生まれたわけですが、同じ地域でも人と名前と顔が判らないような生活圏という位の地域です。ひまわり型、人と名前と顔がわかるような地域が生まれて、いくつかネットワークが出来てくると、これが地域に拡大していき「まさにこれが課題にあるセーフティネットワーク」と言うものではないのではないだろうか。これをかっこよく言うと長池公園を中心とする太陽系宇宙から地域に存在する、太陽系宇宙を幾つか集めるとネットワークが銀河系宇宙になるんだ、宇宙そのものが万物をはびこむ様に出来ているんだから、そこに自分の得意技、自分が出来る事やりたい事を見つながらネットワークをしていく事実を身につける事、そしてこの事務局を大事にしながら皆でより集まって行くことが出来れば、煩くないネットワーク型のコミュニティ社会を今の時代らしくインターネットをつかって構築していけるのではないだろうか、これが今の状態です。最後に、自分の食べていく為の話をしていないのですが、私は八王子市長池公園の20ヘクタールの公園の指定管理者を受託し八王子市と協定しています。これで一回目の話を終え、以上のことを種明かしして発題を終了させていただきます。

藤井コーディネーター：ここで前半を終了させていただきます。後半は皆さんからも事例をお聞きしたり、質問を受けたいと思います。ここで15分間休憩させていただきます。尚、この時間を利用してお互いに名刺交換をしていただければと思います。

質問1：富永さんをお願い致します。（稲田です：女性）。どのようにして人を増やしていたのか興味があります。具体的にどんな努力をしてどんな活動したか説明して欲しい。

富永氏：地域支援型コミュニティで6つの地域の団体を集めて皆で夏祭りを提唱しました。どちらかと言うとやりたくない人達のペースに合わせる事が大事で、月1回の活動を超えるのは難しいと思います。子供達の学校に行き自分達の得意技をやってもらう先生を募りました。そこで私は黒子としての事務局をやることに徹したのです。地域には色々な特技を持った方がいらっしゃいます。この人材をどのように活かすのかを織物で言うと横糸、縦糸の役割を事務局が機能として持つことだと思います。無理をしない持続型の姿勢でやることによって人は集ってくるものです。また、提案型コミュニティを目指していれば、良いことだからやろうと賛同してくれる人達を集めることができます。

質問2：埼玉県越谷市から来ました。介護関係をしています（男性）。最近、越谷市で第3次まちづくり条例を3月に議会に答申、6月に議会で通過、これらの運営に26人の委員が選ばれ、週2回の会議を実施中です。条例の中に楽しいまちづくりの要望あり条例に加えました。孤独死を無くする良いヒントを教えてください。

西山氏：質問にお答えする前に、「行政サービスをおおいに受けるべし」という考えを持っています。地域団体（町内会、自治会等の組織）の位置付けとして行政との関わり方が大切で、「付かず離れず」のニュートラルな関係を保つことです。行政の下請けや出先になってしまうように、市民活動の主体性（自立性）を失わないように。私は行政に関わる委員等は一切やっておりません。越谷市では住民の方々が行動し、自力で成功させているようで、大変良いことでもあります。勿論、地域の特性がありますが、住民（地域）の力だけで実現不可能な場合は行政の所管課へおおいに注文をつけて、行政の政策として実行させることです。地域社会（活動）のニーズを汲み上げて政策実現させることこそ本当の行政サービスであるといえます。

梅原氏：午前中に頂いたこの資料（高齢者白書概要）の中で「高齢者の社会参加者」60%の内訳を見ると、趣味で絵を描いたり俳句を詠んだりそれらは点の文化活動で終わってしまっています。越谷市ばかりではありませんが、特に大事なものは80歳以降のシニアの繋がりが大切です。それは地域の中で点を繋いで線の形に育てていく。高齢者のコーディネーターの育成が重要だと考えています。情報の集まりとして、富永さんのように情報を持ったしっかりした人の所へ人は向いて行くのです。

富永氏：わが町八王子市にはそのような条例はありません。八王子市は広いので難しいと思います。地域によって人の気質が違うし、行き過ぎた個人情報保護を順守する人もいれば、個人情報嫌いな人がいます。結局、個別の生活状況なので資料回収は難しいです。先ほどの質問に答えるならば、情報を時系列でなく三次元、四次元で、困った時など助け合うことがお互いに大切にした暮らし情報システムを作り、協同推進することではないでしょうか。これは住民自らが作ることでしょうから努力してください。

質問3（事例報告）：横浜から参りました小泉と申します。私は退職した後、健康アドバイザーをしております。先ほどの孤独死に関連して、有志でプロジェクトを組んで囲碁の普及をやっています。もう一つの社会問題は、情報社会で子供達が個室でゲーム機器に夢中になっています。それが20年後に障害が前頭葉に出てくると言われています。学校の先生が40歳を過ぎると子供とコミュニケーションがとれないとも言われています。このような社会問題があるからこそ、家族の絆を強める為に囲碁をやっています。大学にも囲碁クラブはあり、勝ち負けでなく囲碁は人間関係を築くのに役立つと事例報告をさせていただきます。そして『はまちブログ』を立ち上げていまして、既に1600件のアクセスがありました。囲碁を普及することによって「人間関係の再構築、孤独死ゼロ、介護の軽減等」に役立つこと、囲碁は誰でも出来ることを推奨し、囲碁は男女対等でできる特徴があり、男女共同参画を地で行っていると自負しています。

質問4：立川の小川と申します。私も健康アドバイザーです。地元立川で先ほど話が出ている「コミュニティの活性化」ですが、従来ある自治体、町内会の組織率が50%という現状です。しかし、孤独死に関して、自治会組織のある大山団地では孤独死0%です。このことからセーフティネットを考えていく場合捨てて置けない。今、立川で中心になって綻びている新しい日々を学ぶ学園でコミュニティの活性化の創造を掲げております。一年半前に市民交流大学を立ち上げて市民が中心になり企画運営して出来れば市民から講師も選び、結果は市民の割合が少ないが、開校して少しずつ軌道に乗っています。狙いは、有名なカルチャーセンターで学ぶことができる地域もあるが、立川での仲間創りをしようと心掛けて、今衰退している資源のコミュニティ創りを補っていきたいと思っています。

もう一つは構想の段階ですが、杉並区の和田中学にリクルートから民間の校長が就任されて5年間で短い間に大変活性化した事例があり、橋元大阪府知事に請われて大阪の顧問に就任されています。これを模倣して市民の手で土曜日の寺小屋を立ち上げ、市民と生徒が土曜日集まって授業についていけない人達はそこで補ってもらおう。このような色んな試みをスタートさせて、まだどうと言うことではないが、学園の切り口でスタートさせているがどなたかご意見を聞かせて下さい。

梅原氏：石原さんが同じ事を言っていました。校舎のない学校を立ち上げてそれを展開していました。認知症の方で今おこっている事は覚えていないが昔の記憶が蘇っている。私の関係する専門学校で昔の話をしてもらおうと生徒達は生き生きと聞いています。実際にお聞きになりたいならば、岐阜県にあります社会福祉法人新生会が運営する総合ケアセンター・サンビレッジを推奨します。

西山氏：その事例として2つ紹介します。一つは、市民活動を支援する行政の所管課（地域振興課）による「ホーム・タウン地域活動事業インターンシップ」で、退職シニア等から希望を聞き、環境、福祉、介護、教育等の地域団体を紹介して研修の機会を提供するものです。もう一つは、社会福祉協議会による「ボランティア体験プログラム事業 福祉学園」で、中学生以上の市民を対象に、夏期を中心とした体験活動を推進。但し、行政のPRが

弱く、希望市民に届く情報が不十分なのが課題です。

富永氏：『テーマ型学び合い』に人が沢山集まってきます。知的な人達と知り合って助け合っていくと良いと思います。行政は人事制度があつてその人が辞めてしまえば、業務の引き継ぎは途絶えてしまいます。民間では事務局機能が重要ですから事務局を構成することにしています。仕事は無理やり押し付けることでは駄目で、事務局にあつている人を見つけてやってもらうことが重要です。いま、ある企業の社長から補助を受けて、『フュージョン地域人材育成地域センター』を立ち上げる準備をしています。1億円位かかるプロジェクトです。事務局ではお金、人、物、情報を操るシステム創りを肝に銘じています。全国何処に居ても、立川、熊谷何処からでもインターネットで見て勉強できるようにしたい。その経費は500円でビデオにとっておいて、パソコンで1年間やると1800万のコンセプトなるようなプロジェクトを実行していきたいと考えています。

質問5：逆の話かもしれません。私は郵政の退職者であります。いわゆる退職者連盟サイド、それぞれの地域で個人が掘り起こして、組織的に動けるように色んなやり方で掘り起こしてやっている。それをやると沢山の事例功績があります。そのような人達を育成でなく広げていくことも大切ではないかと思ひます。

富永氏：つい最近迄、1年前位は人材育成を横からしか見なかった。そこでその人達の知識を活かし草の根の人を掘り起こしていった。地域活性化支援事業、長池支援事業、保全型公園、人、金、物、情報を共同事務局として捉えて、その他に住居している多摩ニュータウンを囲む周辺4市、すなわち稲城市、八王子市、町田市、多摩市をNPO活動センター事務局型、インターネット対応の住宅関連支援事業“すみたい”という名前を付けて、コープ住宅を第1号14世帯、第2号6世帯をそれぞれ7億円、3億円の事業費で開設し、老後の食べもの関係の事業も創っていきました。私自身書くことは苦手ですから、若い有能な先生を会員にして、年度会費3千円で最新の情報を書いてもらい、情報として瞬時に流す。偉い先生方の本は1年遅れ、学者の本は3年遅れますが、我々の方は一番早い情報で、健全なる志が高いとお金になってやって来る。議論する時の先生との関係は固定ではなく変動費となっていく。お互いにソーシャルビジネス研究会を地域人材育成センターで社会的に色々なことをやりたいと考えています。

西山氏：締め括りとして「シニアよ 地域へ力を貸してくれ！」ということです。長寿100歳の時代が近いということですが、60歳以上の世代の総称として「シニア世代」と呼ぶのがよいと考えます。60歳代、70歳代、80歳以上を、それぞれシニア前期、シニア中期、シニア後期と区分したら如何でしょうか。ライフステージの多様化と共に「シニアの社会参加」も多岐に亘ります。シニア世代の生活機能や運動機能が20年前の同一年齢の人より5年は若くなっているそうですから、一般的に次のような社会参加が適切かと考えます。

シニア前期は 現役時代のキャリアを生かして就労中心の社会参加

シニア中期は 居住地も含めた広域で社会貢献できる活動的な社会参加

シニア後期は 体力に合わせて地域中心の緩やかな社会参加

私も、シニア中期の中ほどに位置する年齢ですので、活発に活動して、居住地地域共同体をベースキャンプのようにして、県内や東京の領域、全国の領域においても精力的な毎日を送っています。

併せて、各領域で、「行政サービス」を十分に受けられるよう努力しています。皆様も地域社会のリーダーとして、新たなシニアを迎え入れられますように所属の組織（団体）運営に携わって下さい。有難うございました。

梅原氏：最近、企業も社会責任の一環として、社員の社会貢献活動を推奨していますが、ボランティアが高齢化していることです。今、頭が痛いのは高齢者の一人住まいの社会で接点が少なくなっていること、独居生活が多く認知症が進む、ひきこもり、高齢者鬱病が問題です。次に、高齢者の虐待、万引きの話、これは鬱病の人に多い（老齢学会アメリカで関係ある報告あり）。

富永氏：高齢社会は怖くない、豊かな元気な国家をつくり、子育ての中で健全に地域に目を向ければ高齢者は元気である。こういう国家はない。高齢社会国家として胸を張れる時代を私は真剣に作りたと思っています。宜しくお願いします。以上です。〔拍手〕。

藤井コーディネーター：最後の纏めのメッセージ有難う御座いました。私達はこれから地域に帰りますが、安全、安心、信頼、思いやりというキーワードで地域に起こっている問題に立ち向かっていく事務局（または、キーマン）としての働きを期待したいと思います。今回の課題は大きなものですから、このテーマを引き続き取り上げていきたいと思っています。この会場の皆様方もそうであると思いますが、色々な学びの場との出会いにより地域活動に参画され、活動を通して多くの事柄を学ばれ、活動を継続されていることと思います。どうぞこれからも学びを大切にしてください。これでお終わりにしたいと思います。お疲れ様でした。

